

会場：大東文化会館ホール 主催：大東文化大学有志の会

日中国交正常化45周年記念 講演会開催のご案内

講演者 徐一平、高橋弥守彦先生

2017年 7月8日(土) 14:00～17:30 受付13:30～

【プログラム】 (敬称略)

総合司会：竹島毅 (大東文化大学教授)

開会の辞：鈴木康之 (大東文化大学名誉教授、国際連語論学会名誉会長)

大東文化大学有志の会代表挨拶：丁 鋒

講演1 (14:00～15:30)

徐一平 (北京外国語大学教授、中国日本語教育学会名誉会長)

テーマ：「ナル表現」と「スル表現」から
見た日本語と中国語

司会：須田義治 (大東文化大学教授、国際連語論学会副会長)



休憩 15:30～15:50

講演2 (15:50～17:20)

高橋弥守彦 (大東文化大学名誉教授)

テーマ：「位置移動の動詞“上”の用法と
その日本語訳について」

司会：続三義 (東洋大学教授、日中対照言語学会会長)



閉会の辞：渡邊 晴夫 (東日本漢語教師協会副会長、元國學院大學教授)

【主催】 大東文化大学有志の会 (教員、同級生、卒業生、中国語研究部、やろう会)

【共催】 東日本漢語教師協会、国際連語論学会、日本僑報社

【会場】 大東文化会館ホール

(JR 池袋駅より東武東上線に乗り換え、各駅停車で7番目の駅「東武練馬」北口
[イオン側] で下車、大東文化会館まで徒歩4分)

【定員】 80名 (当日の参加も可能ですが、80名になり次第締め切らせていただきます。)

【参加費】 無料

参加を希望される方は整理の都合上、お名前・ご所属・連絡先をご記入のうえ、
6月25日(日)までに、大東文化大学有志の会事務局までご一報ください。
(メールアドレスは、0708@duan.jp)

日中国交正常化 45 周年記念講演会

開催のご案内

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。このたび、下記の要領で日中国交正常化 45 周年を記念して講演会を開催する運びとなりました。お誘いあわせの上、奮ってご参加くださるよう、ご案内申し上げます。

主 催：大東文化大学有志の会（教員、同級生、卒業生、中国語研究部、やろう会）

共 催：東日本漢語教師協会、国際連語論学会、日本僑報社

日 時：2017 年 7 月 8 日（土）14：00 ～17:30（13：30～受付）

場 所：大東文化会館ホール（JR 池袋駅より東武東上線に乗り換え、各駅停車で 7 番目の「東武練馬駅」北口 [イオン側] で下車、大東文化会館まで徒歩約 4 分）

参加費：無料

参加を希望される方は、誠に恐れ入りますが、整理の都合上、お名前・ご所属・ご連絡先をご記入のうえ、6 月 25 日（日）までに、大東文化大学有志の会事務局（okazaki72@ic.daito.ac.jp）までご一報ください。なお、当日の参加も可能ですが、80 名になり次第締め切らせていただきます。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

【プログラム】（敬称略）

総合司会：竹島毅（大東文化大学教授）

開会の辞：鈴木康之（大東文化大学名誉教授、国際連語論学会名誉会長）

大東文化大学有志の会代表挨拶：丁 鋒

講演 1（14：00～15：30）：

徐一平（北京外国語大学教授、中国日本語教育学会名誉会長）

テーマ：「ナル表現」と「スル表現」から見た日本語と中国語

要旨：『「する」と「なる」の言語学』（池上嘉彦 1981）が発表されて以来、「ナル表現」および動詞「ナル」は、日本語の類型論的特徴を表す一つの指標として、研究対象に取り上げられてきた。

「ナル表現」の文が実現する背後には、話し手の＜事態の主観的把握＞の傾向とそれに沿って言語化する態度があり、「スル表現」の文が実現する背後には、話し手の＜事態の客観的把握＞の傾向とそれに沿って言語化する態度がある。

言語を「スル言語」と「ナル言語」に大別した場合、それぞれ同じ事態を表現するのに、前者は「スル表現」をより好む傾向が、後者は「ナル表現」をより好む傾向が観察される。英語は「スル表現」を好む傾向が、日本語は「ナル表現」を好む傾向があると一般的に考えられている。

では、中国語はどうだろうか。本報告は、

- 1、「ナル表現」と「スル表現」
- 2、中国語の「ナル」相当動詞
- 3、「ナル表現」の日中比較
- 4、「事態把握」の日中比較
- 5、「場」をとらえる中国語の表現

などの角度から、日本語と中国語の「ナル表現」と「スル表現」を比較しながら話を進めていく。

コメンテーター：

王学群（東洋大学教授、国際連語論学会会長）

陳淑梅（東京工科大学教授）

山口直人（大東文化大学教授）

司会：須田義治（大東文化大学教授、国際連語論学会副会長）

<休憩> 15：30～15：50

講演2（15：50～17：20）：

高橋弥守彦（大東文化大学名誉教授）

テーマ：「位置移動の動詞“上”の用法とその日本語訳について」

要旨：下記の原文と訳文に見られるように、一般的に言えば、例（1）（2）のように中国語と日本語は対応関係にある。しかし、例（3）から例（8）のように、“上+空間詞”の空間詞の形状の違いにより、“上”が多様な意味になる場合がある。

（1）老赵已经来了。（『八百詞』p. 213）

趙さんはもう来た。（同上）

発表者は、これまでに中国語の移動動詞を移動動詞の有する意味から有様移動の動詞“走、爬…”、位置移動の動詞“上、下…”、趨向移動の動詞“来、去”の3類に分けている。中国語の位置移動の動詞“上”は、発表者の分析によれば、下から上に移動する意味「あがる」が基本義である。“上”は角度性の移動を表すので、基本義を表す場合であれば、対象となる空間詞は、“楼”（例2）のような角度性のモノ名詞（派生空間詞）だが、そのほかにも下記の例文に見られるように、いろいろな形状の名詞ともくみあわせる。それにより、“上”の意味が異なってくる。

（2）上楼的时候，孩子说：……（『人民』88-2-98）

階段を上がりながら、子供が言った。（『人民』88-2-99）

(3) 日上中天时他的孩子又开始哭起来了。(『人民』97-3-87)

太陽が中天に昇る頃になると、また赤ん坊の泣き声が聞こえてきた。(同上)

(4) 喂，咱们上法院。(講読①-62)

さあ、裁判所へ行きましょう。(講読①-70)

(5) 他心头一热，坦荡而磊落地上了车。(『人民』90-8-103)

彼は胸が熱くなり、つらさを振り払うようにパッと車に乗り込んだ。(同上)

(6) 老张的事迹上了报了。(『八百詞』p. 302)

張さんの行った立派な行為が新聞に載った。(同上)

(7) 妈抱他上床，他还下来。(『人民』89-7-98)

母が抱き上げて寝かせても、また起きてくる。(『人民』89-7-99)

上掲の“上+空間詞”の空間詞は、基本空間詞“中天”と派生空間詞“楼、车、报”に分かれる。中国語の“上”は、日本語では[あがる、のぼる、行く、乗る、載る]などに訳される。中国語では動詞が“上”だけなのに、それに対応する日本語では、なぜいくつもの訳にする必要があるのか、中日両言語の視点の角度から、その理由を明らかにする。

コメンテーター：

佐藤富士雄（中央大学名誉教授）

劉勳寧（明海大学教授）

大島吉郎（大東文化大学教授）

司会：続三義（東洋大学教授、日中対照言語学会会長）

閉会の辞：渡邊 晴夫（東日本漢語教師協会副会長、元國學院大學教授）

※当日午後5時30より水晶楼（大東文化会館より徒歩3分）で懇親会（会費：6000円、高橋弥守彦著『中日対照言語学概論—その発想と表現—』および『高橋弥守彦教授古希記念論文集』を含む）を開催いたします。参加ご希望の方は、6月25日（日）までに、大東文化大学有志の会事務局（okazaki72@ic.daito.ac.jp）までお申し込みください。

【講演者プロフィール】



徐一平（じょ いっぺい）：北京外国語大学教授、元北京日本学研究中心長。中国日本語教育学会名誉会長、中華日本学会副会長などを兼職。日本語学、中日言語対照研究専攻。著書に、『日本語研究』（1994年）、『日本語言』（1999年）、『中文版日本語文型辞典（簡体字版・繁体字版）』（2001年）、『中日対訳語料庫的研制与应用研究論文集』（2002年）、『日語擬声擬態詞研究』（2010年）、『日源新詞研究』（2011年）、『如何教授地道的日語』（訳著、2015年）などがある。



高橋弥守彦 (たかはし やすひこ) : 大東文化大学名誉教授、東日本漢語教師協会会長代行、日中対照言語学会顧問、国際連語論学会顧問兼名誉副会長、日本中国語教育学会名誉会員、東松山市中国語学習会顧問、華中師範大学言語学系客座教授、延辺大学特約撰稿研究員、遼寧对外経貿学院研究員など。専門は中国語文法学、日中対照言語学。著書に『中日対照言語学概論—その発想と表現—』(単著、2017年、日本僑報社)、『格付き空間詞と〈ひと〉の動作を表す動詞との関係—日中対照研究を視野に入れて—』(単著、2009年、大東文化大学語学教育研究所)、『実用中国語詳解文法』(単著、2006年、郁文堂)、『日漢対比语言学』(共著、2015年、南开大学出版社)、『中国語虚詞類義語用例辞典』(共著、1995年、白帝社)、『中国語と現代日本』(共著、1985年、白帝社)、『中国語談話言語学概論』(共訳、2008年、白帝社)など10数冊あり。論文は移動動詞、介詞、ヴォイス、形容詞、副詞などを中心として200余編あり。